

1. 水稻新品種‘岡山57号’の育成（技術）			
[要約] <u>湛水直播に適する、強稈、良質、極良食味で穂発芽しにくい岡山県中部向けの早生品種‘岡山57号’</u> を交雑育種法によって育成したので、 <u>品種登録</u> を申請する。			
研究室名	作物研究室	連絡先	0869-55-0275

[背景・ねらい]

岡山県の奨励品種である‘コシヒカリ’は、食味は良いが、倒伏しやすい。また、‘キヌヒカリ’は穂発芽しやすく、品質に問題がある。そこで、これらの欠点を改良し、湛水直播にも適する強稈、多収で良質な極良食味品種の育成が望まれている。

[成果の概要・特徴]

1. ‘岡山57号’は、平成元年に‘キヌヒカリ’を母、‘コシヒカリ’を父として交配し、集団育種法で育成した。平成7年から奨励品種決定調査及び現地試験に供試し、生産力と現地適応性を検討してきた（表1）。
2. 出穂期、成熟期がコシヒカリとほぼ同じ早生種であった。
3. 稈長はコシヒカリより18cm程度短く、耐倒伏性は強かった。
4. 穂数は、コシヒカリよりやや少なく、草型は中間型に属した。
5. 穂発芽性は、コシヒカリと同程度の難で、キヌヒカリより穂発芽しにくかった。
6. 耐病性は、いもち病、縞葉枯病とも弱く、コシヒカリと同程度だった。
7. 収量性は、移植栽培ではコシヒカリよりやや劣ったが、湛水直播栽培ではキヌヒカリよりやや高かった。
8. 玄米は、形状、大きさともコシヒカリ並みで、外観品質はコシヒカリより良かった。
9. 食味は、コシヒカリと同等の極良食味で、粘りも強かった。
10. 湛水直播栽培では、キヌヒカリより苗立ちが良く、倒伏も少なかった（表2）。

以上の結果から、‘岡山57号’は有望と考えられるので、品種登録を申請する。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及地帯は、岡山県中部から北部にかけての標高200m以下の地域で、対象品種は‘キヌヒカリ’と‘あきたこまち’の一部とする。
2. 短稈で倒伏には強いが、過度の多肥栽培では、いもち病が発生しやすく、品質や食味が低下するので、施肥量は‘キヌヒカリ’並みとする。
3. いもち病に弱いので、薬剤の苗箱処理を行い、本田での適期防除に努める。
4. 湛水直播栽培における適応性は高いが、播種期が遅いと収量が低下しやすいので、5月上旬～中旬に播種を行う。

[具体的データ]

表1 岡山57号の特性一覧

調査地	岡山農総センター農業試験場		農業試験場北部支場	
調査年次	平成(7~13年)		平成(7~13年)	
品種名	岡山57号	コシヒカリ	岡山57号	コシヒカリ
早晩性	早生の早	早生の早	早生の早	早生の早
草型	中間型	中間型	中間型	中間型
出穂期(月.日)	8.15	8.14	8.09	8.08
成熟期(月.日)	9.21	9.19	9.14	9.15
稈長(cm)	77	93	79	99
穂長(cm)	18.9	19.0	18.2	18.6
穂数(本/m ²)	294	306	333	354
脱粒性	難	難	難	難
耐倒伏性	強	弱	強	弱
穂発芽性	難	難	難	難
耐病性	葉いもち	弱	弱	弱
	穂いもち	やや弱	弱	やや弱
	白葉枯病	やや弱	中	中
	縞葉枯病	弱	弱	弱
玄米重(kg/a)	51.0	54.0	56.4	57.2
収量比率(%)	94	100	99	100
玄米千粒重(g)	22.3	22.0	23.0	22.6
玄米品質	上の下	中の上	上の上	上の中
食味	上の中	上の中	上の中	上の中

表2 カルパー無コーティング湛水直播における岡山57号の特性^{a)}

品種名	苗立率 (%)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	1穂 粒数 (粒)	玄米 千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)	玄米 品質 ^{b)} (1~9)	倒伏 程度 ^{c)} (0~5)
岡山57号	46.7	8.12	9.23	73	370	84.2	21.8	52.3	3.6	0.3
キヌヒカリ	43.0	8.11	9.22	76	337	82.7	22.2	50.9	5.2	0.9
どんとこい	43.3	8.11	9.22	74	390	78.1	21.7	52.9	4.3	0.4

a) 岡山農試における平成9~13年の平均値

b) 1(上上)~9(下下)

c) 0(無)~5(甚)

[その他]

試験研究課題・事業名：交雑育種法による良質強稈多収品種の育成
 水稲奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：平成元~13年度

関連情報等：平成10年度試験研究主要成果：水稲有望系統‘岡山57号’の育成